

市長との意見交換会 概要

【日 時】 令和3年1月11日（月・祝）13：30～15：30

【場 所】 萩市総合福祉センター 多目的ホール

【参加者】 市民 約40名

はじめに、萩市長から、萩の医療の現状と課題、中核病院づくりについて説明を行った。続いて、萩市民病院と都志見病院の両病院長から、各病院の現状と課題、中核病院づくりに向けた思いについて説明を行った。

（主な意見・質問等）

- 私たち市民が安心して生活するためには、医療の充実は欠かせず、是非進めてほしい。萩では大きな手術ができないため、市外の病院に行っている。これから高齢化が進むと、市外の病院に通院するのは難しくなる。大きな手術を市外の病院でするのは仕方がないにしても、その後は萩に帰って、中核病院で治療ができるようにしてほしい。
⇒ 高度な手術等が必要な場合、市内に専門医がいないため、山口大学等と連携を取り、治療をしてもらっている。治療後は両病院でも継続治療を行っており、中核病院でも引き続き医療連携を図っていききたい。
- 術後から在宅につなげるための地域包括ケアや緩和ケア、リハビリテーション機能を設けてほしい。また、がん治療における放射線治療について、萩では受けられないので、是非議論してほしい。
⇒ 都志見病院でも緩和ケアを行っているが、専門の病棟や病床はなく、各診療科の医師と専門看護師とのチーム医療で行っている。また、医師会の在宅医療に取り組んでいる医師と連携を取り、がん診療と緩和ケアが継ぎ目無くできるような体制を取っている。放射線治療は平成24年まで都志見病院でやっていたが、専門医の確保や高額な設備投資が困難となったため、今は一旦休止している。専門医の確保や採算性等の課題もあるが、需要も増えてきており、中核病院での実施について検討していききたい。
- 地方独立行政法人とする場合、トップの役職の人選が決まらなければ、具体的な話が前に進まないのではないかと思うが、どうなっているのか。
⇒ 実務準備組織の設置までにはトップの方を決めたいと考えている。本来は、現在

の中核病院づくりの議論の中にトップの方がいるのが最も望ましいことだと思う。できるだけ早く決めたい。

○ コロナのこともあり、感染症対策や災害拠点病院についてもしっかり検討してほしい。

⇒ 感染症対策については、県や山口大学等の関係者と議論しながら、どこまでやるのかを含め、しっかりと考えていきたい。

⇒ 感染症も災害もいつ起こるかわからないが、平時から準備することが大事である。指揮命令系統の確立や安全性の確保も大事だが、最も重要なのがコミュニケーション、情報伝達であり、中核病院においても一体感の醸成が図れるよう、これらの機能を充実させたい。また、有事の際も対応できるよう、柔軟性を持った中核病院のあり方を検討していきたい。

○ これから人口が減少し、入院患者数も減少するとのことだが、私は、人口に占める患者の比率は上がるのではないかと思っている。人口が少ないのに病人が多いという社会構造において、多額の経費がかかる中核病院を地方独立行政法人という運営形態で支えられるのか。医療体制は安心だが、税金が高いということになれば、住みにくくなるのではないかと危惧している。運営形態を見直すことはないか。

⇒ 多額の経費がかかるからこそ、地方独立行政法人による効率的な経営が必要であり、市民に信頼される病院になれると考える。ただ、全て効率を優先するわけではなく、必要な不採算医療についてはしっかりとやる。

また、税金は決められた税率をかけており、病院経営が赤字であっても市民の税負担が増えることはない。

○ 地方独立行政法人となっても、経営に無駄がないか、常に見直してほしい。現在の市民病院でも毎年多額の赤字が出ていて、市民病院の性格上、仕方がないと言われればそれまでだが、本当に市民病院の経営体質がきちんと精査されているのか、疑問に感じる。

⇒ 地方独立行政法人の理事長は経営者であり、中核病院ではより経営的な発想が持ち込まれることになる。萩市民病院においても、年に1回、経営状況の検証をしっかりと行っているが、中核病院では、法人として常に検証を行うことになり、むしろ市の財政負担は軽減すると期待している。それがこの経営形態の効果と考える。

○ 3月に市長選があるが、市長が交代した場合、この中核病院の話はなくなってしまうのか。

⇒ 市長が交代した場合、新しい市長の判断に委ねられることになるため、答える立場にない。ただ、この中核病院の問題は一刻の猶予もなく、議論を進めなければ萩市の医療崩壊につながりかねない事態であると考えます。

○ 予防医療にもっと力を入れるべき。特定健診の受診率を向上させる等、予防医療を充実させることで、医療コストの減、病院の負担減につながるのではないかと。

また、学校教育の場に医師会や管理栄養士が入り、子どもの頃から運動や栄養の大切さが浸透すれば、子どもたちの健康づくりだけでなく、この経験が萩出身の医学生へのUターンのきっかけにもなり、将来的に医師の確保につながるのではないかと。ぜひ取り組んでもらいたい。

⇒ 「中核病院の基本的な方向性」の中にも予防医療を掲げており、その実現に向けて、関係者と取り組んでいこうとしている。また、中核病院の検討と併せ、現在、市の健康福祉計画の見直しを進めており、いただいた意見を紹介したい。

○ 小児科の維持は非常に難しいと思うが、障がい児のために、非常勤でも専門医がいてくれると心強く、大変助かる。小児科の専門医を是非残してほしい。

⇒ 特殊な分野の専門医は県内でも少ないが、萩医療圏に必要であるため、引き続き維持していきたい。

以上